

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・各教科や総合的な学習の時間等において、表現する活動を意図的に計画したり、ICTを効果的に活用したりして、児童が主体的に考え、伝え合い、高め合う授業を目指す。	中間評価	・表現する活動を意図的に計画したり、ICTを効果的に活用したりすることで、児童は主体的に考え、伝え合うことができるようになってきたが、高め合うためには、話し合い活動の充実が必要である。	最終評価	・表現する活動を意図的、計画的に取り入れれたり、ICT機器を効果的に活用したりした結果、児童の主体性や伝え合う力が向上した。高め合いの充実を図るため、話し合い活動の工夫を継続していく。
		・全ての児童が落ち着いて学習に取り組むことができるように、まなびの教室の教員と協力して教室環境、学習環境を整備する。		・教室環境と学習環境の整備により、集中して学習に取り組む児童が多くなってきた。特別支援を必要とする児童が落ち着いて学習に取り組めるよう、まなびの教室の教員との連携をより一層密にしていける。		・教室環境と学習環境の整備により、落ち着いて学習に取り組む児童が多くなってきた。今後もまなびの教室の教員との連携をより一層密にして、児童がさらに学習に集中できる環境を整えていく。
環境作り						

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）
1	国語	<p>学「話すこと」については意欲的である。「聞くこと」については、話に集中することはできるが、必要なことを聞き渡さないようにすることは、十分定着しているとはいえない。</p> <p>学平仮名の読み書きはほぼ習得しているが、片仮名の読み書きは、十分定着しているとはいえない。一、二文の文章を書くことについては意欲的であるが、語と語や文と文の続き方に注意してつながりのある文章を書くことに対して苦手意識をもつ児童が多い。また、語彙が少なく、言語事項の習得状況に個人差がある。</p> <p>学日常的に感染予防対策でマスクを着用しているため、正しい口形、発声、発音の学習が十分できていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大事なことを落とさずに聞けるようにする。 ・文や文章の中で片仮名を適切に使えるようにする。 ・自分が書いた文を読み返す習慣を身に付けさせる。 ・「～です。」「～でした。」が「～れす。」「～れした。」に「話すこと」「書くこと」共になるので、正しい発音を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校朝会后に、校長講話の内容をノートに書かせる。 ・身近にある片仮名で書く語を毎日少しずつ取り上げ、文や文章を書く場面を意図的に設定する。 ・視写や作文指導など、文章を書く機会を多く設ける。また、書き出しの文を統一したり、友達の書いた文章を読んだりすることで、様々な「書き方」を身に付けられるようにする。 ・感染予防に留意して、母音の口形、安定した発声、明瞭な発音を意識して音読練習に取り組む。 	<p>学日常的に書いたり読んだりする活動を多く取り入れることで、身近にある片仮名で書く言葉を覚えることができた。</p> <p>学短文を書く機会を多く設けたり、もしも日記を書いたりしたことで、文章を書くことに抵抗感がなくなり、進んで書こうとする態度が育ってきた。</p> <p>学新出漢字の学習を2月末までに終え、残りの期間を反復練習にあてることで、3月末までに既習漢字の書き取りができるようにする。</p> <p>学音読や群読の発表会に取り組むことで、意欲的に明瞭な発音で音読できるようになってきた。</p>
	算数	<p>学10以内の加法については、概ね理解できている。</p> <p>学10以内の減法については、理解はしているが計算に時間のかかる児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10の補数をすぐに言えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5までの数の構成（合成・分解）の反復練習をする。 ・5までの加法、減法を確実に身に付けさせる。 ・授業の最初に毎時間、10の補数の学習を行い、数に対しての苦手意識を取り除く。 ・おはじきや算数ブロックなどの半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れる。 ・タブレット端末を活用して計算問題の習熟を図る。 	<p>学タブレット端末を活用して既習事項の習熟に取り組むことで、学習内容への理解が高まった。</p> <p>学算数ブロックやおはじき、色板等の半具体物を用いた活動を多く取り入れたことで学習内容への理解が高まった。</p>

学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<p>学話すことについては意欲的だが、聞く力は十分身に付いていない。話し方についても、よい姿勢や適切な声の大きさで、分かりやすく話すことができる児童は多くない。</p> <p>学新出漢字の学習に意欲的に取り組む一方、丁寧に書いて練習することや定着度に個人差がある。また、書く活動には進んで取り組むが、句読点や助詞の使い方がまだ定着していない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して、大事なことを落とさずに話を聞けるように指導する。 ・自分の書いた文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに気づき、正すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に、尋ねたり、応答したり、小グループで話し合ったりする活動を意図的に取り入れる。また、話す人の方を向いて話を聞く習慣を付けさせる。 ・「○○について話します。」と言うなど、話の要点をとらえやすい話し方を教師がする。 ・様々な学習場面で、視写や自分の思いを書く活動を取り入れ、書いたものを声に出して読み返すようにさせる。 ・視写や、文法事項の学習を、朝学習の時間に計画的に取り入れる。 ・タブレット端末を活用して、学習内容の復習を繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して聞くことができる時間が増えてきた。朝会の講話後や読み聞かせ後に内容を書かせる。 ・引き続き、話の要点を捉えやすい話し方を。児童にも話型を提示するなどして、児童同士でも捉えやすいようにする。 ・自分の書いた文章を読んでいるだけになり、句読点などの使い方や既習した漢字が使われていないこと、主語と述語がねじれていることに気が付かない児童がまだ多い。ICTを活用し、音声録音をして聞き返す方法を活用する。 	<p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では、基礎に比べて活用が目標値よりも下回っていることが分かる。領域別で見ると、「情報の扱い方に関する事項」、「読むこと」は目標値より上回っている。一方で「書くこと」は目標値よりも9ポイント下回った。</p> <p>学学習の中で尋ねたり、話し合ったりする中で、相手の話を集中して聞くことができるようになった。</p> <p>学感想や考えを書いたり、視写をしたりすることで主語と述語のねじれが少なくなってきた。</p>
	算数	<p>学ほとんどの児童が二位数の加法及び減法の計算の仕方を理解している。しかし、一位数の繰り上がりや繰り下りの計算がまだ身に付いていない児童もいる。</p> <p>学自分の考え方を説明したり、友達の考え方と比べたりする力がまだ不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がり、繰り下りのある計算が正確にできるようにする。 ・話し合いによってよりよい方法を導き出したり、問題を解決したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を操作したり、図に表して考えたりするなどの活動を取り入れる。 ・小グループの活動や、児童相互のコミュニケーションを重視した学習スタイルを定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図に表すことで理解が深まる児童が多い。繰り下りのある計算の理解が不十分なので、位取り表を活用していく。 ・自分の考え方を図や式を用いて表すことができるようになってきた。児童相互のコミュニケーションによって、更に考えを深められるようにしていく。 	<p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では「数と計算」、「測定」とともに区の平均正答率より下回っている。</p> <p>学図で表したり、タブレット端末を使って繰り返し学習したりしたことにより、繰り下りのある計算が身に付いた児童が見られた。</p> <p>学図の表し方に慣れ、自分の考えを図で表して表現できるようになった。図を用いて友達と違いを比べられるようになった。</p>

3	国語	<p>調令和2年度新宿区学力定着度調査では、「話すこと・聞くこと」の領域において、目標値を9ポイント下回っている。</p> <p>調日記や詩を書く活動に、意欲的に取り組む姿が見られるが、「書くこと」の領域において目標値を下回っている。指定された長さで文章を書く活動を積極的に取り入れ、力を付ける必要がある。</p> <p>学新出漢字の習得に個人差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し手が知らせたいことを落とさないように聞くことができるようにする。 指定された長さで、自分の想いや考えが明確になるように文章を書くことができるようにする。 文章の中で、漢字を正確に書き、適切に用いることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話す人の方を向いて話を聞く習慣を付けさせる。聞き取りのワークやスピーチ活動を朝の時間等で継続的に行う。 学習感想を授業の終末に書かせたり、内容に関する自分の考えを書いたり話したりする時間を設けたりする。限られた文字数や決められたテーマで文章を書く取組を継続的に行う。 新出漢字の定着を図るため、漢字テストに繰り返し取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く姿勢を保持できるようになってきた。スピーチ後に、大事なことを落とさずに聞くことができたかをクイズ形式で振り返らせる。 書く活動を継続して行うことで、自分の思いや考えを書けるようになってきた。引き続き、語彙を増やし、指定された長さで文章を書く活動に取り組んでいく。 ドリルやタブレット端末を活用して、学習内容の復習を繰り返し行っている。 	<p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では、問題の内容別正答率を見ると「話し合いの内容を聞き取る」、「説明文の内容を読み取る」、「メモをもとに文章を書く」ではほぼ区平均正答率と同値である。「漢字を書く」では区平均正答率を10ポイント下回った。</p> <p>学3月末までにドリルやタブレット端末を使って繰り返し漢字の習熟を図る。</p>
	算数	<p>調令和2年度新宿区学力定着度調査では、2桁や3桁のたし算や引き算の計算に課題が見られた。図から立式をすることにも課題が見られた。</p> <p>学基礎的・基本的な計算の習得に個人差が見られる。</p> <p>調令和2年度新宿区学力定着度調査の「量と測定」の領域においては、定着に課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりや繰り下がりのある計算をする力を付ける。 基礎的・基本的な計算力を付ける。 「量と測定」領域の既習事項を確実に習得できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本となる計算力を身に付けさせるため、授業の冒頭で反復練習を行う。 「長いものの長さのはかり方と表し方」「重さのたんいとはかり方」の単元の導入時に既習事項を確実におさえるとともに、実際に測定させる機会を多く設けて、習熟させる。 	<ul style="list-style-type: none"> スキルやタブレットを用いて反復練習をさせたり、類題を解かせたりすることで、基礎基本となる計算力を身に付けることができる。 「長いものの長さのはかり方と表し方」の学習では、実測の機会を多く設けた。「重さのたんいとはかり方」の学習も実測の機会を多く設け、習熟させるとともに量感を豊かにすることができるようにする。 	<p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では「長さ・重さ」が区平均正答率を上回った。「たし算・ひき算」や「かけ算」「わり算」は区平均正答率を10ポイント下回った。</p> <p>学朝学習や家庭学習の時間に四則の計算の習熟を図っていく。</p> <p>学習熟度別少人数授業の中で、実測の機会を積極的に設け、量感が身についてきたことで、自信をもって問題に取り組む児童が増えた。</p>
4	国語	<p>調令和2年度新宿区学力定着度調査では、領域「書くこと」については区の平均正答率を上回っていた。一方で、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の正答率は、ともに区の平均正答率を下回っている。</p> <p>学授業では、学習のふりかえりを書く際、自分の考えを入れてよく書くことができる。一方で、話すことにおいて、内容を簡潔にまとめたり、他の人の意見をふまえて発言したりすることに慣れていない状況が見られる。</p> <p>調令和2年度新宿区学力定着度調査における問題の内容別正答率を見ると、「漢字を書く」の正答率は、区の平均正答率と比べて、6ポイント低く、平均を大きく下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報を結び付け、話の中心を明確にして話せるようにする。 話し手の話す内容を理解して聞くことができるようにする。 書かれていることにもとづいて物語の内容を正しく読み取ることができるようにしていく。 文章の中で、漢字を正確に書き、適切に用いることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一分間スピーチの時間を設け、要点をまとめ簡潔に話す機会をつくる。 聞き取りのワークやスピーチの時間を継続的に行う。 朝読書や図書の時間を使い、児童が本を読む時間を計画的に設ける。 新出漢字の定着を図るために、ドリルや練習帳、タブレットを使い、繰り返し練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 要点整理をして、時間内に話すことができるようになってきた。具体例を入れつつ簡潔に話す力を身につけていく。 友達のスピーチを聞いての感想を話す機会を設け、しっかりと話を聞く姿勢を身に付けていく。 朝読書や図書の時間を活用することによって、読解力が身に付いてきた。引き続き、継続的に本を読む機会を設けていく。 繰り返し、漢字練習を行うことよってテストや文章の中での書き間違いが少なくなってきた。引き続き、漢字を反復する時間を設け、新出漢字の定着させていく。 	<p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の正答率が、ともに区の平均正答率を上回った。</p> <p>学朝読書や図書の時間を活用することによって、物語の内容を読み取ったり、説明文を読み取ったりする力が付いてきた。</p> <p>調令和3年度新宿区学力定着度調査の問題の内容別正答率を見ると、「漢字を書く」ことにおいて区平均正答率を下回った。繰り返し、漢字練習を行い、文章の中での書き間違いを減らしていく。漢字を反復する時間を設け、新出漢字の定着を図っていく。</p>
	算数	<p>調令和2年度新宿区学力定着度調査では、領域「数と計算」「図形」「測定」の正答率は、区の平均を上回っている。</p> <p>調令和2年度新宿区学力定着度調査における問題の内容別正答率を見ると、「10000より大きい数」「かけ算」の正答率は、区の平均を下回っている。</p> <p>学授業での状況を見ると、基礎的な計算力は身に付いているが、3桁×3桁のかけ算の筆算など、数が大きくなるにつれて位取りが正しくできない状況が見られた。</p> <p>学自分の考えを説明したり、自分の考えと比較し説明したりする力が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎、基本の力を定着させる。 大きな数の計算を正確にできるようにする。 自分の考えを説明したり、話し合いによってよりよい解を出したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用して、基礎、基本の力の習得・習熟を図る。 大きな数のかけ算の問題に繰り返し取り組ませる。 ペアやグループで話し合う時間を授業の中で意図的につくり、自分の考えを説明したり、よりよい解き方を見付けたりする機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリルパークやeライブラリーを用いて反復練習をしたり類題を解かせたりすることで、基礎基本の力を付けることができる。 授業の冒頭で大きな数のかけ算の計算問題に取り組ませたり、位について確認したりすることで、習熟を図ることができる。 タブレットを用いて自分の考えを友達に分かりやすく説明したり、友達の考え方で改めて問題を解かせたりすることで、学習内容への理解を深めることができる。今後は、思考力・判断力・表現力を高めるようなタブレットの効果的な使用方法を探っていきたい。 	<p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では、「数と計算」「図形」の正答率は、区の平均を上回った。</p> <p>調令和3年度新宿区学力定着度調査の問題の内容別正答率を見ると、「億と兆・がい数の表し方」の正答率が、区の平均を上回った。</p> <p>学3桁×3桁のかけ算の筆算など、数が大きくなって位取りを間違えずに計算することができてきた。一方、3桁÷2桁などのわり算は、商をどの位にたてるかに苦手意識をもっている児童もあり、引き続き計算問題に取り組んでいく。</p> <p>調令和3年度新宿区学力定着度調査の工夫した計算のしかたを説明する問題では、目標を値大きく上回った。</p> <p>学自分の考えを図を用いてわかりやすく説明できる児童が増えてきた。また、自分の考えと比較しながら理解しようと意欲的に取り組む児童が増えてきた。</p>

5	<p>国語</p>	<p>調令和2年度新宿区学力定着度調査では、領域「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」については区の平均正答率を上回っている。一方で領域「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の正答率は、ともに区の平均正答率を下回っている。</p> <p>学物語文の内容を捉える際に、叙述をもとに人物像を考えたり、登場人物の行動の意味を考えたりすることに慣れていない状況が見られる。文章を書くことに関しては、書くことが得意な児童と苦手な児童との差が大きい。</p> <p>調令和2年度新宿区学力定着度調査における問題の内容別正答率を見ると、「漢字を読む」の正答率は区の正答率より5ポイント高い。一方で、「調べたことを発表する」の正答率は、区の平均正答率と比べて12ポイントも低く、大きく下回っている。</p>	<p>・叙述にもとづいて物語の内容を正しく捉えられるようにする。</p> <p>・内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を指定された文字数で書けるようにする。</p> <p>・文章を読み、それに対する自分の考えを書けるようにする。</p> <p>・複数の情報を結び付け、話の中心を明確にして話せるようにする。</p>	<p>・読書環境を整え、朝の読書をはじめ、児童が本を読む時間を設定する。</p> <p>・文章の内容を捉える際には、想像ではなく、必ず叙述をもとに考えるように指導する。</p> <p>・限られた文字数や決められたテーマで文章を書く取組を継続的に行う。</p> <p>・様々な場面において、内容に関する自分の考えを書いたり話したりする時間を設ける。</p> <p>・調べた内容をまとめ、目的や意図をはっきりさせて制限時間内に発表できるように指導する。</p>	<p>・読書環境を整えたり、おすすめの本を紹介し合ったりすることで、すすんで読書をする児童が増えた。それに伴い、文章の内容を正しくとらえ、理解できるようになってきている。</p> <p>・書く活動を継続して行うことで、自分なりに書けるようになってきた。ただし、文章量や内容に大きな個人差があるため、今後は文章を書くことを苦手としている児童に対して、それぞれの実態に応じた個別の手立てをとることが必要である。</p> <p>・話すことに関しては、決められた時間内で、話の中心を明確にして話せるようになってきた。</p>	<p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では、基礎に関しては区の平均正答率よりもわずかに低い値であるが、目標値を上回っている。一方で活用に関しては、目標値、区の平均正答率より下回っている。領域別に見ると「情報の扱い方に関する事項」は区の平均正答率を上回っている。今回も領域「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の正答率は、ともに区の平均正答率を下回っているが、「読むこと」については、目標値を8ポイント以上上回り、区の平均値にも近い値であった。</p> <p>学文章の内容を捉える際に、どの文章からどのように考えたのか叙述を根拠にして考えるということを繰り返し行ったことで、登場人物の心情や筆者の主張など文章内容を正しく捉えることができるようになってきた。</p> <p>学インターネットなどを活用して調べた様々な情報を目的や意図をはっきりさせて新聞やプレゼンテーション資料にまとめることで、話す内容を整理することができた。それらを活用し、話の中心をより明確にして話せるようになった。</p>
	<p>算数</p>	<p>調令和2年度新宿区学力定着度調査では、領域「変化と関係」は区の平均正答率をわずかに上回っているが、その他の領域に関しては、すべて区の平均正答率を下回っている。特に「図形」に関しては、7ポイントも低く、大きく下回っている。</p> <p>調令和2年度新宿区学力定着度調査における問題の内容別正答率を見ると、「垂直・平行と四角形」で区の平均正答率よりも9ポイント近く低い。</p> <p>学授業での状況を見ると、基本的な計算力は身に付いているが問題文を正しく理解してないがゆえに間違ってしまう状況が見られる。また、前学年までに学習した内容が定着していないために問題が解けない状況も見られる。一方で、やり方を教えるとすぐに学習したことを思い出し、解答を導き出すことができる。</p>	<p>・分度器等の使い方や読み方を正しく身に付ける。</p> <p>・図形の描き方を理解し、正しく図形を描けるようにする。</p> <p>・分配法則など、計算のきまりを正しく理解して、正確に計算する力を伸ばす。</p> <p>・文章問題をしっかりと読み、問題の意味を正しく理解してから問題に取りかかれるようにする。</p>	<p>・朝学習などで、継続的に器具を使って図形を描く活動を行う。</p> <p>・計画的に計算ドリルや東京ベーシック・ドリル、タブレットPCを活用し、苦手な問題を繰り返し解くなどして習熟を図る。</p> <p>・授業では、習熟度別クラスにて、児童の学習状況に応じた内容、進度で学習を進めていく。</p> <p>・補充問題として、文章問題に取り組み、しっかりと問題文の意味を捉えられるようにする。</p> <p>・授業では、ICT機器を効果的に活用する。</p>	<p>・実際に図形を描く機会を多く設けることで、器具を適切に扱うことができるようになってきた。</p> <p>・それぞれの習熟度別クラスにおいて、児童の実態に応じた学習活動を繰り返し行うことで、全体的なレベルアップを図ることができた。今後はより学年全体として計画的に復習させることで、より確かな習熟を図っていく。</p> <p>・習熟度クラスで授業を行うことで、より児童の実態に応じた指導ができた。その結果、特に算数を苦手とする児童に対しては繰り返し問題を解かせることで、基本的な学習内容についての理解を深めることができた。</p> <p>・デジタル教科書やタブレットなど、ICT機器を効果的に活用することで、児童がより深く学習内容を理解することができた。また、児童の実態に応じて学習を進めることができた。</p>	<p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では、基礎、応用ともに目標値は上回った。昨年度の調査で、区の平均正答率を大きく下回っていた。また、問題の内容正答率を見ると、2学期後半に学習した「単体量当たりの大きさ」と「平均」に関しては、内容理解が難しい児童も見られたが、結果は区の平均正答率と大きく変わりはない。一方で、分数や小数の計算では、どちらも区の平均を大きく下回っている。今後は朝学習など様々な場面を活用して計算スキルの向上を図る必要がある。</p> <p>学習熟度別クラスにて、児童の学習状況に応じた内容、進度で学習を進めていったことで、概ね児童がその学習時間内に理解することができた。一方で、算数に苦手意識をもっている児童に関しては、その時に理解できても、学習内容の理解が定着しておらず、次の学習に生かす際に、既習の内容を忘れてしまっていることも少なからずある。今後は既習内容に関して、より計画的に復習を行っていく必要がある。</p>

	<p>国語</p>	<p>調令和2年度新宿区学力定着度調査では、教科の正答率は目標値においても、全国平均値においても上回っているが、「書くこと」が2.5ポイント目標値を下回っている。</p> <p>学「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて話したり聞いたりする力が十分とは言えない。</p> <p>学新出漢字の習得については個人差が大きい。</p>	<p>・相手や目的に応じて文章を書く力を伸ばす。</p> <p>・要点を正確に聞き取る力や、相手や目的に応じて話す力を伸ばす。</p> <p>・漢字を正確に書き、文章の中で適切に用いることができるようにする。</p>	<p>・テーマ作文を通して、様々な種類の文章の書き方を身に付けさせる。また、新聞記事についての意見を書かせ、内容をまとめる力や、意見を持ち、書いて表現する力を身に付けさせる。</p> <p>・全校朝会の校長講話を要約させ、それに対する自分の意見を発表させる。</p> <p>・スピーチや話し合いを国語はもちろん他教科の学習においても計画的に取り入れる。</p> <p>・新出漢字の確実な定着を図るため、間違えた漢字をノートに練習することや、タブレットPCを用いた漢字学習に繰り返し取り組ませる。</p>	<p>・文章表現を工夫することができる児童増えてきた。「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」という単元の学習を通して、物事に対する自分の評価を述べる文章の書き方を身に付けさせる。</p> <p>・児童と校長と面談する機会を設け、話題に沿って話したり、敬語を使ったりする練習をさせる。</p> <p>・スピーチの時間の目安を決めることで、量や構成を意識して話すことができるようになってきた。</p> <p>・朝学習の時間に漢字ミニテストを実施し、新出漢字の定着を図る。</p>	<p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では、教科の正答率が目標値を上回った、令和2年度新宿区学力定着度調査では目標値を下回っていた「書くこと」も8.4ポイント上回っている。</p> <p>学テーマ作文や新聞記事についての意見を書かせることを繰り返したり、物事に対する自分の評価を述べる文章の書き方を指導したりすることで、自分の考えを工夫して文章で表現することができるようになった。</p> <p>学スピーチ活動を日常的に取り入れたことで、目的や意図に応じて話したり、相手の意見に対して自分の意見を述べたりできるようになった。</p> <p>学朝の漢字ミニテストを続けたことで、児童自身が自身の習熟度を確認することができた。</p>
6	<p>算数</p>	<p>調令和2年度新宿区学力定着度調査では、領域別に見ても、観点別に見ても、全ての項目で目標値や区の平均正答率を上回っており、学習内容をおおむね理解できていると考えられる。</p> <p>調令和2年度新宿区学力定着度調査の結果、思考力・判断力・表現力の観点においては、区の平均を5.7ポイント上回っているが、正答率は6.8%であり、時間内に自力解決する力が十分とは言えない。</p> <p>学未習の内容に対して、既習事項を活用したり、関連付けたりして学習を進めようとしていることができている。学習した内容の定着度には個人差が見られる。</p>	<p>・問題場面を正確にとらえる力や、問題を正確に解く力を伸ばす。</p> <p>・既習事項を確実に押さえ、未習の内容に対して活用できるようにする。</p>	<p>・図や式を効果的に使っているノートを提示したり、友達と解き方を説明し合う時間を設けたりする。</p> <p>・いつでも振り返ることができるよう、既習事項を掲示しておく。</p> <p>・自分で解き方を考える時間を十分確保し、それを友達と説明し合い学び合う活動を多く取り入れる。</p> <p>・タブレットPCを用いた計算練習や文章問題に繰り返し取り組ませる。</p>	<p>・互いのノートを見合ったり、タブレットの発表ノートに自分の考えを書いて友達と説明しあい、自分の考えと比較して考えたりしたことで、学習内容への理解を深めることができている。</p> <p>・ドリルパークやeライブラリを用いて反復練習をしたり類題を解かせたりすることで、基礎基本の力を付けることができている。今後も継続して習熟を図るとともに、文章問題や応用問題にも取り組ませることで、思考力を伸ばしていく。</p>	<p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では、領域別に見ても、観点別に見ても、全ての項目で目標値を上回っており、学習内容をおおむね理解できていると考えられる。</p> <p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では、思考力・判断力・表現力の観点において正答率は73.8%であり、令和2年度の正答率を上回っている。</p> <p>学友達と解き方を説明し合う活動を多く取り入れたことで、既習事項を活用して自力で応用問題を解くことができるようになってきた。</p> <p>学基本の問題の反復練習と応用問題に取り組ませることを継続して行うことで、思考力を伸ばしていくことができた。</p>
	<p>音楽</p>	<p>学関心・意欲は高い児童が多いが、友達の演奏に合わせて演奏することについては課題がある。</p> <p>学楽器の正しい使い方が十分に身に付いていない児童、読譜に苦手意識のある児童、自分の思いをもって演奏することが難しい児童が見られる。</p> <p>学鑑賞では感じ取ったことを自分なりに表現できるが、音楽を聴き深めるということに関しては個人差があり、感じ取った根拠となる音楽の要素と合わせて説明することができる児童はまだ少ない。</p>	<p>・思いをもって演奏できるようにする。</p> <p>・正しい楽器の使い方を身に付ける。</p> <p>・鑑賞の授業に対して、関心・意欲をもてるようにする。</p> <p>・音楽的な語彙を増やす。</p>	<p>・スモールステップで段階的に授業をすすめ、「できて楽しい。もっと音楽がやりたい。」という意欲を引き出す。</p> <p>・楽器の授業の際は、児童相互のコミュニケーションを重視した授業を展開する。</p> <p>・楽器の教材の初めには必ず、よい音の出し方について指導する。</p> <p>・音楽の語彙を増やすため、音楽に関する語彙カードを有効に活用する。</p>	<p>・どのクラスからも「もっと素敵な合奏に仕上げたい。」という声が聞かれるようになってきた。また、休み時間にすすんで練習に来て、自分自身の演奏の技術を高めている児童も増えた。</p> <p>・きれいな音色・響き等、一般的に良いと言われる基準をあらかじめ伝え、自分自身の演奏を比較し、改善点を見付けたり、より良い演奏にするためにはどうしたらよいか考えたりすることのできる機会を授業の中で設ける。</p>	<p>・「みんなで合奏をしたい。」「音楽が楽しい。」という言葉を発表する児童が増えた。</p> <p>・「頑張る。」と、励ましたり、「こうやるといいよ。」等、児童同士で教え合ったり、練習したりする姿が見られるようになり、音楽を通じたコミュニケーションが活発になった。</p> <p>・どの学年の児童にも正しい楽器の持ち方とよい音の響かせ方を教え演奏させるようにしたところ、理解し、よい響きで演奏することのできる児童が増えた。</p> <p>・様々な音色、響きを低学年から聴かせたり、比較させたりすることで音に対する感想を言語化する活動を取り入れた。鑑賞の際に、学習した内容を関連させて表現する児童はまだ少ない。引き続き、音楽的要素、語彙等、低学年から段階に応じて指導を行う。</p>

<p style="text-align: center;">工</p>	<p>学 関心・意欲が高い児童が多い。ただ、はじめは意欲的に取り組んでもそれが続かず、丁寧に取り組む事が難しい児童や、なかなか発想が広がらず自分の表現に自信をもてない児童も見られる。</p> <p>学 平面作品(特に絵画)に苦手意識をもっている児童がいる。表現の方法や道具の使い方などを知ることによって自信をもって活動出来るようにしたい。</p> <p>学 鑑賞については、友達の作品を認める事が全体によくできている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 様々な題材に対して、関心・意欲をもてるようにする。 自分の作品に愛着をもち、最後まで表現する。 <ul style="list-style-type: none"> 正しい道具の使い方を身に付ける。 様々な表現方法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞を通して思いを交流できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な題材を取り入れ、児童の関心・意欲を引き出す。 作品制作中にも随時鑑賞の時間を設け、自身の製作に生かせるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を繰り返し確認、指導しながら授業をする。既習事項を生かした学習を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の際は作品を見るポイントを提示したり、作った相手のことを考えた言葉選びを行うよう指導したりして、思いを交流する活動を大切にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態や発達段階に添うよう題材を配慮している。児童の関心意欲は高く感じるがその意欲の継続が難しい児童もいるので題材の提示や途中の声掛けなど更に工夫していく。 平面作品、立体作品をバランス良く取り入れるよう心掛けている。表現方法を身につけられるよう、作品を提示したり師範したりしている。 鑑賞では、互いの作品を見合い、コメントを書き合う活動を多く取り入れている。お互いの良さを認め、認められることに心地よさを感じられるよう今後も交流する活動を大切にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階に応じて題材を提供したり、時間配分をしたりするよう心掛けてきた。それにより児童の意欲関心は比較的保てたように思うが、当初の予定より題材を終えるのに時間がかかる場合があった。来年度はその反省を元に題材を精選していく。 平面作品、立体作品にバランス良く取り組めるよう心掛けたが、やや立体作品への時間が多くなっていった。予定より立体作品の完成に時間がかかる事が多かったのが原因と考えられる。バランス良く活動出来るよう計画を立てていきたい。 お互いの作品を鑑賞し認め合う場を設定してきた。より形や言葉に残る交流のしかたを組み入れながら、今後も交流を深めていきたい。
<p style="text-align: center;">支</p>	<p>学 個人差はあるが、発達の特性から、コミュニケーション能力や読み書き、計算、運動能力に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりできるようにする。 基本的な体の動かし方やバランス感覚、力加減などが身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実生活に即した場面を設定し、挨拶や人とのやりとりなどコミュニケーション能力を高められるようにする。 粗大運動や協応動作を取り入れ、運動能力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 小集団指導および個別指導で、指導の効果が表れている児童が増えてきた。引き続き児童の特性に応じた指導を通して効果を高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人とのやり取りなどを継続して指導をすることで、学校生活でコミュニケーションがとれるようになってきた。コミュニケーションスキルを高め、様々な場面で活用できるよう指導をしていく。

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。